

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立有田中央高等学校 校長名：村崎 隆志

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
「地域社会の中核を担う若者を育てる」
・社会人としての学習や生活の基礎基本を身につけ、自らの課題解決に取り組むなど、生涯をととして学び続ける姿勢を身につけた生徒。
・自己有用感をしっかり持ち将来に向けて前向きに行動するとともに、地域社会の中核を担っていく自覚と覚悟を身につけた生徒。
・自己と他者を尊重し、多様な在り方を認めることができる正しい社会性を身につけているとともに、状況に応じて自ら判断し、主体的に行動ができる生徒。
・望ましい倫理観を身につけているとともに、学習指導や生徒指導の助言を素直な気持ちと向上心を持って受け入れ、適切な言動がとれる生徒。

学校評価の公表方法
年度末に生徒・保護者・職員等の学校評価結果を関係者に知らせるとともに、学校のホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（3月6日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	知識基盤社会に必要な学力獲得に繋がる学習指導の構築と社会の中核を担う若者の育成に直結したキャリア教育の充実	B	I C Tを活用した授業の研究や教員同士で授業を参観し合うことにより、授業力向上を図る。 「学び直し」の授業展開や、少人数授業により、基礎学力の定着を図る。 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」をキャリア教育の中心とし、生き方・在り方を深めさせる。	全教員が研究・公開授業を年2回以上実施。また、授業改善WGによる校内研修を実施。 年2回の到達度テストにおいて、基礎学力の定着がみられるか。 3年生の進路決定率 100%。インターンシップの充実。	A B A	2月に公開授業の期間を設けたり、授業改善WGによる校内研修を実施したりし、授業改善に繋げた。 少人数授業等により、基礎学力はついてきている。 生き方・在り方ゼミやインターンシップなどのキャリア教育を充実させ、生き方・在り方を深めさせることができた。	基礎学力の定着を図りつつ、目標を高く持つ生徒の学力をより伸ばしていける授業展開を研究する。また、I C Tを活用した授業を積極的に取り入れる。キャリア教育については、見直しを図りながら、引き続き充実させる。
2	自らの将来や社会全体を意識した行動規範の確立と自他の可能性を尊重し合い、希望に溢れた学び舎の創造	B	学年アセンブリー等で、身だしなみ指導や他者理解についての講話を行う。 部活動の活性化やボランティア活動への積極的な参加を促す。 生徒会活動や全学年縦割りグループ活動を通して自己・他者理解を深める。 教員一人ひとりが生徒と真摯に向き合い、生徒の課題克服に向け、組織的に対応する。	定期的なアセンブリーを実施。学校評価アンケートにおいて、昨年度の数値と比較する。 年間を通じて部活動参加率 80%以上。有田川クリーン運動等に積極的に参加。 生徒会活動の取組を支援だよりで紹介。学校評価アンケートにおいて、昨年度の数値と比較する。 迅速にケース会議を開催し、適切な対応ができているか。	B B A B	定期的なアセンブリーでは、有中生の課題である部分の講話を行った。2学期に行った遅刻指導は効果的だった。 部活動への参加率はなかなか上がらなかったが、参加している生徒は一生懸命に活動している。 発表する場面を学校全体で多く取り入れ、生徒のプレゼン力が少しずつ上がってきている。 迅速にケース会議を開けている。関係機関との連携も取れており、組織的に対応できている。	落ち着いた学習環境がかなり整ってきている反面、支援を必要とする生徒は年々増えてきている。職員間の情報共有をしっかりと行い、生徒一人一人にきめ細かい支援を行うことで、自己理解や他者理解を深めさせる。また、生徒会活動や部活動の活性化については、継続して取り組み、学校全体を盛り上げる。
3	教員の資質向上を伴った効率的、組織的な学校運営と学校外の活力をいかした教育活動の充実	B	各分掌や各学年において、また、分掌と学年間において、情報共有をしっかりと行い、適切で効率的な運営を行う。 農業・福祉系列を中心に地域と連携した取組を進め、本校の魅力を発信する。	運営委員会、職員会議は月2回の開催に押さえる。分掌長と学年主任の連携を密にできているか。 学校運営協議会、PTA、同窓会との連携。ホームページの充実。	B B	情報を共有し、適切な学校運営が行えている。また、年間を通じて、業務改善に努めている。 出前授業や交流授業により、農業・福祉系列では、地域との連携を深めている。	校務分掌間や学年と分掌との連携をさらに深めていく。また、学校の課題には職員が一丸となって取り組み、地域との連携についても継続して力を入れていく。

学校関係者評価（3月6日実施）
○ 落ち着いた学習環境で生徒たちは勉学に励んでいる。
○ 農業・福祉系列や部活動において、コロナ禍も明け、地域との交流を深めている。今後も活発に交流してほしい。
○ コロナ禍で縮小していた学校行事は、コロナ禍前に戻り、学校に活気が戻った。生徒たちには進路実現に向け、充実した学校生活を送ってほしい。
○ 地域連携の一つとして、有田川町主催の「第2回ありだがわ楽市」を品評会と同時開催という形で、有田中央高校で開催した。今年度も大盛況だった。今後は有田中央高校としての参画をもっと増やし、有田中央高校をアピールしてほしい。
○ 品評会については、広報の仕方や内容を精査し、さらなる盛り上がりを期待したい。
○ 生徒数が減少している中ではあるが、生徒会活動や部活動がんばっている。今後はさらなる活性化を目指してほしい。
○ 有田中央高校の地元では人材不足が続いている。地元で就職する生徒を増やせるような取組を学校とともに検討していきたい。企業でも環境整備の必要性を感じている。
○ I C Tの活用はこれからの時代なくてはならないものなので、充実したI C T教育をお願いしたい。
○ 学校の魅力をもっと伝えられるように今後さらに広報に力を入れてほしい。